



**Data**

監督・脚本：山田洋次

出演：橋爪功／吉行和子／西村雅彦  
／夏川結衣／中嶋朋子／林  
家正蔵／妻夫木聡／蒼井優  
／小林稔侍／風吹ジュン／  
中村鷹之資／丸山歩夢／有  
蘭芳記／藤山扇治郎／オク  
ダサトシ／広岡由里子／北  
山雅康／徳永ゆうき／近藤  
公園／劇団ひとり／笑福亭  
鶴瓶

### ■■■ショートコメント■■■

◆「熟年離婚」をテーマとした『家族はつらいよ』（16年）（『シネマルーム37』131頁参照）に続いて、「無縁社会」と「死」をテーマにした『家族はつらいよ』のパート2が完成！「フーテンの寅さん」のような面白い風来坊はいなくなり、高齢化社会のさまざまな問題に直面している昨今、平田周造（橋爪功）夫妻とその3人の子供たちが織り成す面白い家族の物語がシリーズ化されたのは想定どおりだ。

高齢者の危険運転問題が顕著になる昨今、その運転免許証の返上が声高に唱えられているが、さて平田家では・・・？

◆山田洋次監督が脚本も書いた本作では、高齢者の運転免許証問題をトコトン掘り下げていくのかと思っていたが、あくまで「喜劇」を目指す本作（本シリーズ）では、そこまでやる必要なし。そのため、それはあくまで、長男夫婦の平田幸之助（西村雅彦）と史枝（夏川結衣）、長女夫婦の金井成子（中嶋朋子）と泰蔵（林家正蔵）、二男夫婦の平田庄太（妻夫木聡）と憲子（蒼井優）が平田家に集まる「家族会議」の議題として問題提起されるだけで、その本質的な問題点や解決策は何も提示されない。

それに代わって本作では、導入部が終了した後に、周造の故郷・広島の高校時代の同級生である丸田吟平（小林稔侍）が本作の「メイン・ゲスト」として登場し、何とも変わったキャラクターを見せつけた後、突然あつと驚く大事件が発生するので、それに注目！それは、へべレケに酔っぱらった挙げ句、周造と共に夜中に平田家に戻り、オーロラの鑑賞旅行に出掛けていた周造の妻・富子（吉行和子）のベッドに泊めてもらった丸田吟平の突然の死だ。

『男はつらいよ』シリーズは特別篇も入ると49作まで続いたが、ここでも死をテーマとした喜劇の展開はなかった。ところが、『家族はつらいよ』シリーズでは第2作目にし

て、高齢者の死をテーマにした喜劇に！そりゃ、一体なぜ・・・？

◆小林稔待演じる丸田吟平は呉服屋の跡取りで、高校時代は背が高く、女子生徒にもてていたらしい。しかも、周造があこがれていたマドンナを妻にしていたというから、彼の絶頂期はさぞかし……。ところが今は、73歳にしてかんかん照りの工事現場で汗をかきながら赤い棒を振っていたから、そりゃ大変。その落差の大きさには驚くほかないが、私の友人にも似たような男が……。

そんな丸田吟平を、女将のかよ（風吹ジュン）が経営している小料理屋に誘い、心ゆくまで昔話を花を咲かせる老人たちの風景も今どき珍しくなっているが、これを見ていると、周造は家族の中ではガンコじいといと嫌われている（？）が、ホントは好々爺であることがよくわかる。もともと、73歳になった今、いくら酔っぱらったとはいえ、高校時代の友人を自宅まで連れてきて、妻のベッドに寝かせるのはいかなもの……？しかも、その世話を長男の嫁・史枝にやらせるのは、更にいかなもの……？

◆そこらあたりに多少脚本上の無理があるが、翌日、周造の運転免許証返上問題を議論するための「家族会議」に子供たちが集まってきた中、丸田吟平の死亡という大変な事態が！そんなシークエンスにおける、①調子のいい鰻屋（徳永ゆうき）、②新米巡査の中村（藤山扇治郎）、③敏腕刑事（劇団ひとり）という新しいキャラクターの登場を含めた喜劇的展開はそれなりに面白いが、なかなか笑えない面も……。

しかして、本作のクライマックスは、本来、自治体の職員一人だけの立会いで行われる丸田吟平の火葬シーンとなるが、そこに見る、死をテーマとした山田喜劇の人間模様とは……？本作ではそれをじっくり楽しみたい（悲しみたい？）が、今ひとつ腹から笑い切れないのは、やはり脚本に少し無理があるからかも……？

2017（平成29）年4月28日記